

第1回 CNS キャリア育成のためのスキルアップセミナー 「CNS の役割開発・役割獲得」開催

去る2月3日、東京都港区にて日本専門看護師協議会（以下、協議会）臨床能力向上委員会主催の第1回 CNS キャリア育成のためのスキルアップセミナー「CNS の役割開発・役割獲得」が開催された。委員長である藤田冬子氏（高知県立大学看護学部教授）の、専門看護師（以下、CNS）の役割拡大と新たな役割の創出の機会となれば、との挨拶の後、第1部はリレートーク「組織における役割開発と能力向上について」、第2部は10グループに分かれてのテーマディスカッションが行なわれた。

CNS の認定審査受験者数は年々増え続け、その結果、登録者は、1044 名（2013 年 2 月 22 日現在）まで増加している。また、今回のセミナーの定員は 100 名であったが、それを超える応募があったとのこと。そして、ほぼ全県から参加者が集まった。CNS の方々の向学心とモチベーションの高さが表われている。

協議会では、これまで領域ごとにスキルアップセミナーを開催してきたが、今回のような領域を越えたセミナーが行なわれた背景には、CNS に求められている「実践」「相談」「教育」「調整」「研究」「倫理調整」の6つの役割について、これまで以上に力を発揮してもらいたいということや、活動展開に悩む CNS、特に若い CNS の臨床能力の向上を支援するという狙いがある。実際にリレートークとして報告を行なった4名の CNS のなかには、師長兼任者、教育担当兼任者が1名ずついた。



テーマディスカッションの様子

リレートークで師長兼任者は、「CNS の位置づけは所属組織によって違う。組織が何をめざしているのか、そのなかで CNS として何ができるのかを見極めることが重要である」と報告した。そして、自分の病棟スタッフの看護実践能力を向上させることによって、CNS への注目や信頼が高まるのではないかと述べた。今後は、日々の看護実践をデータ化し、結果として社会に伝えていくことを課題として取り組んでいくとのことであった。

また、入職3年目で CNS となり、入職5年目で副師長となった方からは、やはり CNS の役割開発・役割獲得に近道はないとの話があった。まずは「実践」中心からはじめ、少しずつ他の5つの役割にも注力。とにかく粘り強く一つひとつの事例を積み重ね、チームの成長に尽力し、CNS として信頼を得ることができたという。そして、チームの成長とともに CNS に求められる能力も変わる。それに対応するため、学会・事例検討会・スキルアップセミナーなどへの積極的参加を心がけているとのことであった。

テーマディスカッションでは、「管理者との兼任」「管理者との建設的な関係づくり」「組織のアセスメントへの関わり方」「コンサルテーション」「既存の概念・先入観の打破」などについて、それぞれのグ



本セミナーの運営にあたった2012年度日本専門看護師協議会臨床能力向上委員会のメンバー

ループで熱い意見交換が行なわれていた。また、参加者は若い CNS が多くを占めたが、なかには、働く場の移動により活動展開の方法を模索する CNS も含まれていたという。

以上、駆け足での報告ではあるが、先にも記したように CNS の方々の熱意をひしひしと感じることができるセミナーであった。それぞれの CNS が各施設で存在意義を発揮し、看護の質を高め、チーム医療を引っ張っていく存在になっていくことが期待される。

最後に、協議会の2013～2014年度の体制が2013年4月開催予定の総会にて発表される。CNS 個人の奮闘を、新体制がどのような舵取りでまとめていくかにも注目していきたい。